

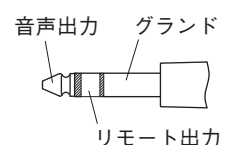
このたびは、TOA卓上型受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの接続マニュアルをお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目次

ご注意	1
インフォメーションアンプTA-102との接続のしかた	2
PAアンプTA-115、TA-130との接続のしかた	
リモート制御をする場合	2
リモート制御をしない場合	3
PAアンプA-1500シリーズとの接続のしかた	
A-1500シリーズの一般マイク入力ジャックに接続する場合	3
A-1500シリーズの予備入力1、2入力ジャックに接続する場合	3
PAアンプTA-2000シリーズとの接続のしかた	
リモート制御をする場合	
入力1または2ジャックに接続するとき	4
電話ページング端子に接続するとき	5
リモート制御をしない場合	
入力1または2ジャックに接続するとき	6
卓上型送信機WM-1110との接続のしかた	
リモート制御をする場合	6
リモート制御をしない場合	6
上手に中継動作をご利用いただくために	6

ご注意

- この接続マニュアルは、本機と外部機器の接続のしかたのみについて記載しています。本機や外部機器の取り扱いについては、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は不平衡出力です。接続コードを長くするとノイズが増えることがあります。
- 本機には、リモート出力があります。このリモート出力により、本機から外部機器をリモート制御することができます。リモート制御を行う場合、接続する外部機器によっては、付属の3極ホーンコードをその機器に対応して加工しなければならないことがあります。
- 3極ホーンプラグのグラウンド端子は音声出力とリモート出力の共通のグラウンドとなっています。リモート制御時に接続コードが長くなると、送信終了時にノイズが発生することがあります。グラウンドラインが長くなる（抵抗値が 1Ω を超える）場合、音声出力とリモート出力のグラウンドは別々に配線し、本機の近くで共通となるように接続してください。また、外部機器との接続のしかたによっては、リモート制御ができない場合があります。このような場合、外部機器の制御端子との配線を入れ換えて接続し直してください。



インフォメーションアンプTA-102との接続のしかた

1. 本機とTA-102の電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「M」に設定します。
3. 付属の3極ホンコードでTA-102の一般マイククロホン入力ジャックと本機の出力端子を接続します。
4. TA-102のマイク音量を最小にしてから電源を「入」にします。
5. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
6. TA-102のマイク音量つまみでお好みの音量に調節します。

PAアンプTA-115、TA-130との接続のしかた

■ リモート制御をする場合（付属の3極ホンコードの加工が必要）

1. 本機とTA-115またはTA-130の電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「L」に設定します。
3. 付属の3極ホンコードを加工します。（☞下記「3極ホンコードの加工のしかた」）
4. 加工したコードで本機の出力端子とTA-115またはTA-130を接続します。（配線のしかたは下記「配線のしかた」、接続のしかたはTA-115、TA-130の取扱説明書の「端子台への接続のしかた」をご覧ください。）
5. TA-115またはTA-130のページング音量つまみを最小にし、本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
6. 本機が同一トーンの電波を受信するとTA-115またはTA-130の電源が起動します。
7. TA-115またはTA-130のページング音量つまみでお好みの音量に調節します。
8. 受信なくなると、TA-115またはTA-130の電源が「切」となります。

[3極ホンコードの加工のしかた（TA-115、TA-130リモート用接続時）]

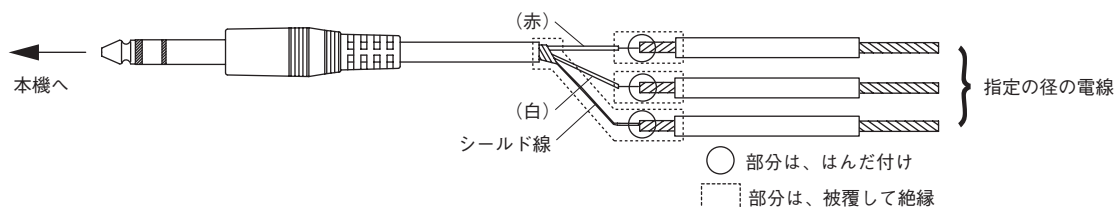
TA-115、TA-130の端子台に接続可能な電線は、以下のとおりです。

単線：φ 0.4～1.6 mm（AWG26～14）

より線：0.3～1.25 mm²（AWG22～16）（素線径φ 0.18 mm以上）

付属の3極ホンコード内の電線は上記条件を満たさないため、3極ホンコードの先端を切断して、上記指定の電線をはんだ付けしてください。

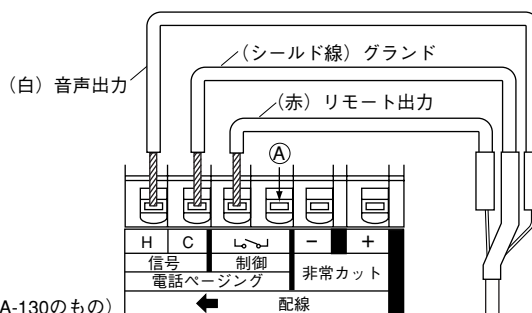
また、接点以外で線がむき出しになるところは被覆して絶縁してください。



[配線のしかた]

右図のように配線してください。

(赤) リモート出力の配線を図中①の端子にすると、リモート制御できません。なお、図中①の端子にグラウンドの配線が不要なのは、この端子がアンプ内でグラウンドに接続されているためです。



(図の端子台はTA-130のもの)

■ リモート制御をしない場合

1. 本機とTA-115またはTA-130の電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「M」に設定します。
3. 付属の3極ホンコードで本機の出力端子とTA-115またはTA-130の一般マイクロホン入力ジャックを接続します。
4. TA-115またはTA-130のマイク音量を最小にしてから電源を「入」にします。
5. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
6. TA-115またはTA-130のマイク音量つまみでお好みの音量に調節します。

PA アンプ A-1500 シリーズとの接続のしかた

■ A-1500 シリーズの一般マイク入力ジャックに接続する場合

1. 本機とA-1500シリーズの電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「M」に設定します。
3. 付属の3極ホンコードで本機の出力端子とA-1500シリーズの一般マイク入力ジャックを接続します。
4. A-1500シリーズのマイク音量を最小にしてから電源を「入」にします。
5. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
6. A-1500シリーズのマイク音量つまみでお好みの音量に調節します。

■ A-1500 シリーズの予備入力1、2入力ジャックに接続する場合

1. 本機とA-1500シリーズの電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「L」に設定します。
3. 付属の3極ホンコードで本機の出力端子とA-1500シリーズの予備入力1、2ジャックを接続します。
4. A-1500シリーズのマイク音量を最小にしてから電源を「入」にします。
5. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
6. A-1500シリーズのマイク音量つまみでお好みの音量に調節します。

PA アンプ TA-2000 シリーズとの接続のしかた

■ リモート制御をする場合 (付属の3極ホンコードの加工が必要)

● 入力1または2ジャックに接続するとき

以下の手順は入力1ジャックに接続するときの例です。入力2ジャックに接続するときも同様の手順で接続できます。

1. 本機とTA-2000シリーズの電源を「切」にします。
2. 放送したい音声の優先順位に合わせて入力1切換スイッチを「優先/ライン」のいずれかに設定します。
ご注意
入力1切換スイッチを「マイク」に合わせると電源リモート制御はできません。
3. 本機のLINE/MICスイッチを「L」に設定します。
4. 付属の3極ホンコードを加工します。(☞ 下記「3極ホンコードの加工のしかた」)
5. 加工したコードで本機の出力端子とTA-2000シリーズを接続します。(☞ P. 5「接続のしかた」)
6. TA-2000シリーズの入力1の音量つまみを最小にします。
7. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
8. 受信すると、TA-2000シリーズの電源が「入」となります。
9. 入力1の音量つまみでお好みの音量に調節します。
10. 受信しなくなると、TA-2000シリーズの電源が「切」となります。

ご注意

- 電源リモート制御を行わずに、受信による他の放送のカットやミュートのみを行う場合は、7.の本機の電源を「入」にする前に、TA-2000シリーズの電源を「入」にしてください。この場合、受信による電源リモート制御はできなくなります。
- 送信機に卓上型送信機WM-1110を使用する場合、以下の点に注意してください。
電源リモート制御を行うときは、WM-1110のチャイム機能は使用しないでください。(WM-1110のチャイムスイッチを「無」にしてください)
WM-1110のチャイム機能を使用すると、TA-2000シリーズの電源立ち上がり時の遅延により、チャイム音が頭切れします。
なお、電源リモート制御を行わずにカットやミュートのみを行うときは、WM-1110からのチャイム音は頭切れしません。

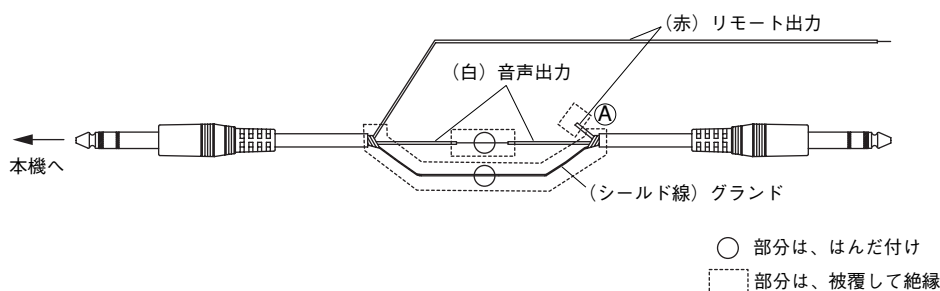
[3極ホンコードの加工のしかた (入力1、2制御端子接続時)]

付属の3極ホンコードを切断し、図のように加工します。

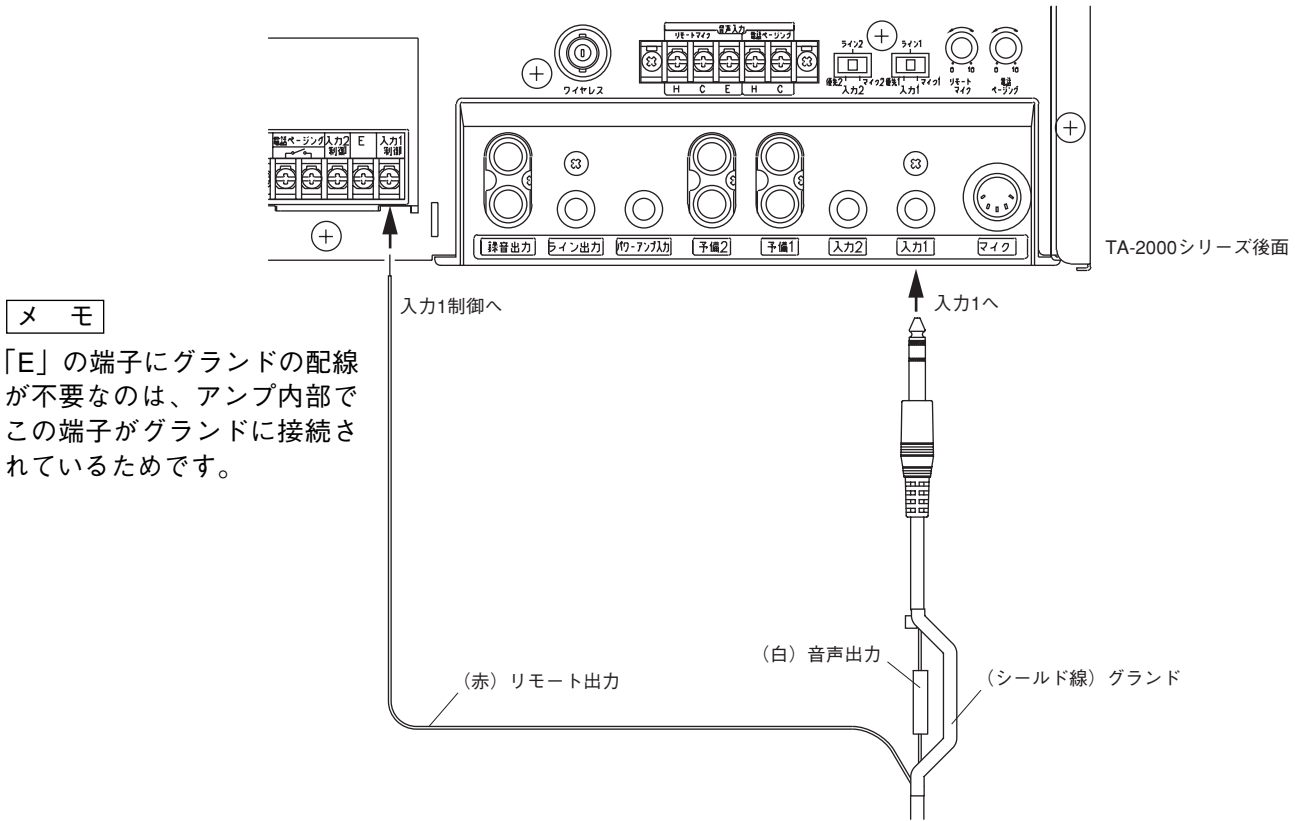
結線の際には、はんだ付けしてください。

また、接点以外で線がむき出しになるところは、被覆して絶縁してください。

図中①の(赤)リモート出力線は、短く切断し、被覆して絶縁してください。



[接続のしかた (入力1、2ジャックリモート制御時)]
(入力1に接続する場合)



● 電話ページング端子に接続するとき

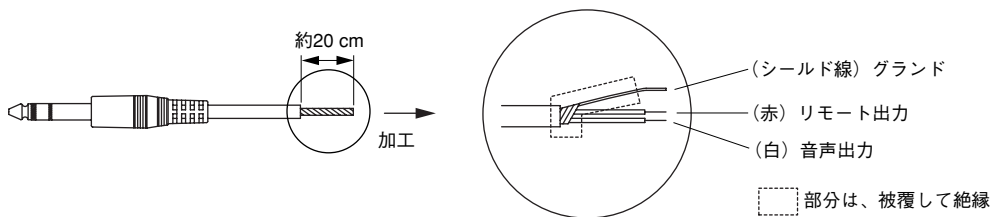
1. 本機とTA-2000シリーズの電源を「切」にします。
2. 本機のLINE/MICスイッチを「L」に設定します。
3. 付属の3極ホーンコードを加工します。
(参照 P. 6「3極ホーンコードの加工のしかた」)
4. 加工したコードで本機の出力端子とTA-2000シリーズを接続します。(参照 P. 6「接続のしかた」)
5. TA-2000シリーズの電話ページング音量つまみを最小にします。
6. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
7. 受信すると、TA-2000シリーズの電源が「入」となります。
8. 電話ページング音量つまみでお好みの音量に調節します。
9. 受信なくなると、TA-2000シリーズの電源が「切」となります。

ご注意

- 電源リモート制御を行わずに、受信による他の放送のカットやミュートのみを行う場合は、6.の本機の電源を「入」にする前に、TA-2000シリーズの電源を「入」にしてください。この場合、受信による電源リモート制御はできなくなります。
- TA-2000シリーズ内蔵の電話ページング用チャイムは使用しないでください。(TA-2000シリーズの呼び出しチャイム設定スイッチ4を「OFF」にしてください。)もし、設定を「ON」にすると、電波が途切れるたびにチャイム音が鳴ります。

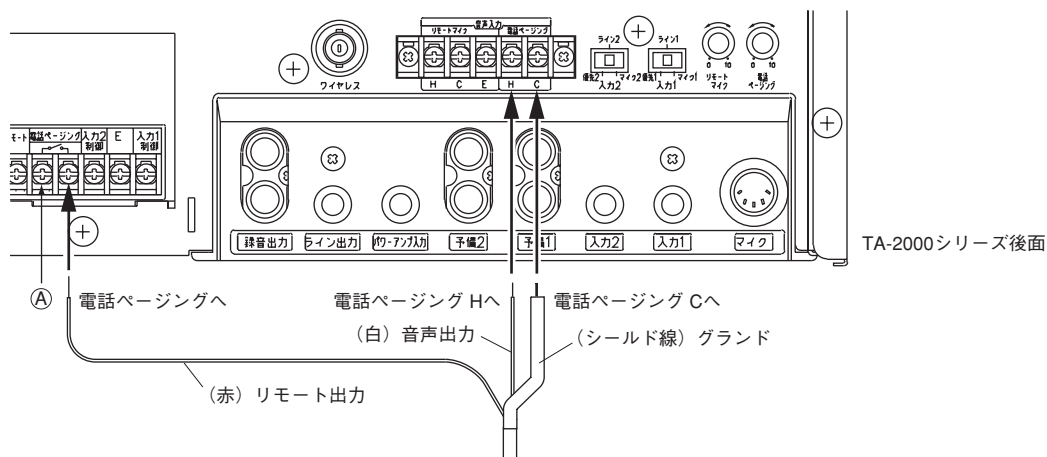
[3極ホンコードの加工のしかた（電話ページング端子接続時）]

付属の3極ホンコードは、接続に必要なだけの長さに切断して、被覆を約20 cm取り除いてから、先端を図のように加工します。接点以外で線がむき出しになるところは、被覆して絶縁してください。



[接続のしかた（電話ページングによるリモート制御時）]

下図のように配線してください。（赤）リモート出力の配線を図中の①の端子にすると、リモート制御できません。なお、図中①の端子にグラウンドの配線が不要なのは、この端子がアンプ内でグラウンドに接続されているためです。



■ リモート制御をしない場合

● 入力1または2ジャックに接続するとき

以下の手順は入力1ジャックに接続するときの例です。入力2ジャックに接続するときも同様の手順で接続できます。

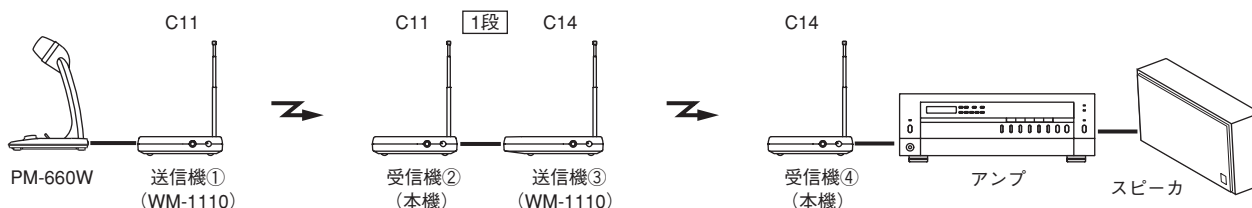
1. 本機とTA-2000シリーズの電源を「切」にします。
2. 入力1切換スイッチを「優先／ライン／マイク」のいずれかに設定します。

メモ

 - リモート制御しないときは制御ラインを接続しないため、入力切換スイッチを「優先／ライン」に設定しても、放送の優先順位はつきません。したがって、この場合、他の放送をカットおよびミュートできません。（詳しくはTA-2000シリーズの取扱説明書をご覧ください。）
 - 入力切換スイッチを「マイク」に設定すると、優先順位がつかます。
3. 本機のLINE/MICスイッチを、入力1切換スイッチが
 - (1) 「優先／ライン」のとき：「L」
 - (2) 「マイク」のとき：「M」
 に設定します。
4. 付属の3極ホンコードで本機の出端子とTA-2000シリーズの入力1ジャックを接続します。
5. TA-2000シリーズの入力1の音量つまみを最小にしてから電源を「ON」にします。
6. 本機の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にします。
7. 入力1の音量つまみでお好みの音量に調節します。

卓上型送信機 WM-1110 との接続のしかた

本機と卓上型送信機 WM-1110 を接続することで、図のような中継動作が可能となります。



■ リモート制御をする場合（上記接続例の場合）

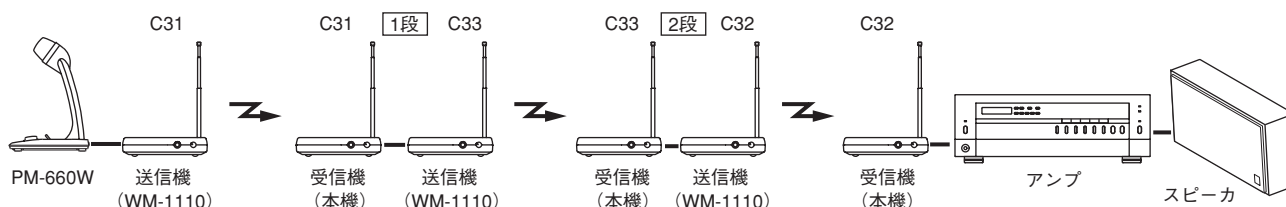
1. 本機の電源と WM-1110 の電源を「切」にします。
2. WM-1110 の入力レベルを -12 dBV に設定します。
3. WM-1110 のリモートスイッチを「有」に設定します。
4. 本機の LINE/MIC スイッチを「L」に設定します。
5. 送信機①と受信機②のグループ、チャンネル、およびトーンスイッチを同じ設定にします。
6. 送信機③のチャンネルを①のチャンネルと2チャンネル以上離れたチャンネル（ただし、①と同一グループ内のチャンネル）に設定します。
7. 受信機④のグループ、チャンネル、およびトーンスイッチを送信機③と同じ設定にします。
8. 付属の3極ホンコードで②と③を接続します。
9. 本機と WM-1110 の電源を「入」にします。このとき、本機のボリュームは最大にして使用してください。
10. PM-660W のトークスイッチを押すと、送信および受信を開始します。

■ リモート制御をしない場合（上記接続例の場合）

WM-1110 のリモートスイッチを「無」に設定します。（WM-1110 は本機の受信に関係なく常に送信状態になります。）他は前項の「リモート制御する場合」と同様の手順で行います。

■ 上手に中継動作をご利用いただくために

- 受信機と送信機が接近していると、受信機の感度が低下し、弱い電波が受信できなくなります。受信機と送信機の距離をできるだけ（50 cm 以上）離してください。
- 1音チャイム設定をする場合は、最終の送信機のチャイムスイッチのみを「有」に設定してください。すべての送信機のチャイムスイッチを「有」に設定すると、すべての送信機からのチャイム音がミキシングされ、チャイム音が歪みます。また、最初の送信機のチャイムスイッチのみ「有」に設定した場合は、チャイム音が最終の受信機で出力されなくなることがあります。
- 使用可能な中継段数は2段（下図）までです。
- 1段の中継動作（上図）のチャンネル設定は、同一グループ内のチャンネルを使用し、各送信機のチャンネルは上図のように2チャンネル以上離れたチャンネルに設定してください。2チャンネル以上離れたチャンネルに設定していない場合、通達距離が短くなることがあります。
- 2段の中継動作のチャンネル設定は、同一グループ内のチャンネルを使用し、各送信機のチャンネルは下図のように設定してください。混信などの理由で下図のように設定できない場合は、各送信機のチャンネルを C22、C24、C23 または C12、C14、C13 に設定してください。



TOA お客様相談センター	フリーダイヤル 0120-108-117	商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、および
商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。 受付時間 9：00～17：00（土日、祝日除く）	ナビダイヤル 0570-064-475（有料） FAX 0570-017-108（有料） ※ PHS、IP 電話からはつながりません。	カタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-21-379-7A